

しゅうなん若者サポーステーション

進路決定者 1000人超

市長に報告

いじめや不登校などを理由に引きこもる若者の就職支援をしている「しゅうなん若者サポーステーション」(周南市栄町)で、進路決定者が千人に達した。運営する県労働者福祉協議会の中繁尊範会長ら3人が6日、周南市役所を訪れ木村健一郎市長に報告した。同ステーションは、周南市以東の5市5町に住む15〜39歳を対象に2008年オープン。臨床心理士やキャリアカウンセラーによる月に1度の相談支援やスピー

パーなどの職場体験、面談トレーニングなどを行っている。昨年度の進路決定者の内訳は、サービス業や製造業などの正社員が35%、パートやアルバイトが65%。一昨年度の就職率は39.7%で全国平均の57.7%を大きく下回っていた。

同ステーションの総括コーディネーター、福岡敬子さん(58)は「徐々に認知度が上がってきた。これから一人一人にきめ細かい支援をしていきたい」と話した。



木村健一郎市長に報告する中繁尊範会長(左から3人目) 6日、周南市

進路決定 1000人達成

周南の若者就職支援拠点

職業的な自立が困難に達したとして6日、周南の若者就職支援する「しゅうなん若者サポーステーション」(周南市栄町)で、進路決定者が3月で千人に報告した。同ステーションは、周南市から若国市までの県東部がエリアで、対象は15〜39歳。臨床心理士やキャリアカウンセラーが個別相談に応じる。就職に必要な資格取得のための



木村市長(右)に進路決定者が千人に達したことを報告する福岡さん(左)

同ステーションは国と県の委託を受け、2008年6月に開所

教育機関の紹介や、コミュニケーション能力を身に付ける講座なども開いている。

同ステーションを利用し、就職、進学が決まった人は18年度の56人から徐々に増え、ことし3月1日時点で計千人に達した。16年度の総数は117人。福岡さんは「これからもきめ細かい支援を続けた」と話していた。(高田果歩)

山口総合